

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自らの個性・能力を磨き、激動する社会の変化に対応できる活力あふれる人材を育成する学校

- 1 主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育み、生徒の希望する進路実現を図る
- 2 人権意識、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を育む
- 3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り地域から信頼される学校づくり

2 中期的目標

1 教育活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢、学ぶ喜びや探究心を育む

(1) 授業の充実

- ア ICT活用、アクティブ・ラーニングの充実の推進
- イ 教員間の授業研究による授業改善の推進
- ウ 論理的な思考を深める機会や意見を述べる機会を設定し、学力の充実を図る
- エ 一人ひとりの教育的ニーズに対応した支援の充実

※ 学校教育自己診断「論理的に文章をまとめる力を身につけている」の肯定的評価を令和6年度には75%以上にする (R2:72% R3:72%)

※ 学校教育自己診断「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」の肯定的評価を令和6年度には80%を維持する (R2:78% R3:81%)

※ 学校教育自己診断「学習時間を確保するよう努力している」を令和6年には70%以上にする (R2:69% R3:68%)

(2) 希望する進路の実現を図る

- ア 「総合的な探究の時間」においてSDGsの課題解決に向けた探究活動を行う
- イ 生徒の多様な進路選択に応えるキャリアガイダンス(進路指導)の充実
- ウ 進路に関する情報提供の充実
- エ 資格取得や各種コンクールへの応募などの推進
- オ 家庭学習の充実(勉学と部活動の両立)
- カ 英語4技能(特に聞く力、話す力)の充実を図る

※ 国立大学、有名私立大学(関関同立)の現役進学率を令和6年度に35%以上にする (R1:23% R2:29% R3:37%)

※ 学校教育自己診断「進路についてのアドバイスをよくしてくれる」の肯定的評価を令和6年度85%以上を維持する (R2:85% R3:88%)

2 豊かな人間性の育成

(1) 人権感覚を育成し、他者理解のできる真のリーダーとしての資質を育む

- ア 情報リテラシーを高め、SNS等によるいじめやハラスメントを防止する

(2) 全ての教育活動においてSDGsを意識し、国際感覚を備えた人材の育成を図る

(3) 部活動や学校行事の充実を図り、より一層、達成感や充実感を高める

※ 学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的評価を令和6年度には85%を維持する (R2:88% R3:85%)

※ 学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある」の令和5年度に肯定的評価90%を維持する (R1:90% R2:93% R3:89%)

※ 部活動加入率90%の維持(R1:90% R2:90% R3:91%) 学校行事への満足度90%以上を維持する (R1:95% R2:94% R3:97%)

3 地域から信頼される学校づくり

(1) 部活動等により地域連携活動を推進する

(2) 広報活動を充実させ、学校の教育活動をこまめに発信する

(3) 業務の精選と学校組織(教員体制、運営方法等)の再構築により、働き方改革を推進する

(4) 安全・安心な学校生活を送れるよう危機管理を行う

- ア 新型コロナ感染防止対策を徹底し、感染防止に努める
- イ 食物アレルギー事故防止のために組織的に対応する

※ 学校教育自己診断の保護者の情報発信についての満足度の肯定的評価を令和6年度に90%にする (R1:79% R2:89% R3:90%)

※ 学校教育自己診断の「教員間の相互理解、信頼関係により教育活動が行われている」の肯定的評価を令和6年度に80%以上にする (R1:64% R2:77%)

学校教育自己診断の「先生たちはお互いによく協力し合っている」の肯定的評価を令和6年度に85%を維持する (R1:84% R2:86% R3:87%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】 コロナ禍による影響を受け、国際交流関係については思うように進められなかったことで、評価はかなり低く期待に応えることができなかった。今後リモート以外で進めていくことを考えている。昨年度より肯定率が向上した設問の割合は、生徒58%、保護者32%、教員93%。保護者の肯定率の割合が落ち込んでいるが、数値の変化はほとんどみられず、また、全項目の平均においても生徒82.7%、保護者72%、教員87.5%と保護者を除いては昨年より向上した。生徒の肯定回答(平均)は昨年より2%向上しており、アンケートの質問項目においても、43項目中25項目で昨年度を上回るという高い評価となっている。一方保護者では15項目において下がっているが、「北千里高校に子どもが入学して良かったと思う」91%「保護者として保護者懇談などで先生方に率</p>	<p>【第1回】 令和4年7月1日(金) 15:30~17:00 ▷評価について(観点別評価) 各評価項目とは何か? 「知識・技能」の観点にも、定期考査だけでなく、小テストで見取る部分もあり、その観点の評価に入れる項目のことを示している。 ▷授業について 小学校でもタブレットが一人一台配付されて1年生から使っている。授業でも使っているが有効な使い方を広げていくのがなかなか難しい。高校では? ⇒総合的な探究の時間でのグループ活動、発表のプレゼンテーションソフトの共同作成、学校支援クラウドサービスを各教科・科目で作成し受講生徒が全員登録 授業で取り上げられなかった課題の配信、考査後の振り返り課題・回答 配信 演習実験をweb会議システムで同時配信、生徒会活動の委員会資料、アンケートをフォーム作成ツールで実施、全校の集会などをweb会議システムでの配信により実施(コロナ対策) 教員の研修にも積極的に使用して慣れていく ▷意見を述べるといった授業は高校ではどのように行っているか?</p>

府立北千里高等学校

直に意見を伝えることができている」84%と、いずれも保護者の高い評価を得ており、今後も家庭と連携を取りながら、さらなる取り組みを進めていく。

【学習指導等】

「学校に行くのが楽しい」89%「行事(修学旅行・体育祭・文化祭ほか)には楽しく参加している」94.7%「授業はわかりやすい」82%といずれも高評価を得ており、「生徒1人1台端末を効果的に活用している」85%「授業には意見を述べたり深く考える機会がある」87%「先生は教え方に様々な工夫をしている」88%と高く、ICT機器の充実や授業改善が進んでいることを感じる。また、今年度からの新学習指導要領実施で、「評価は、テストの点数だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」が88%と高評価となっており、学校全体で授業改革に取り組み、教員が研修や相互の授業見学などを通じて、課題の共有化に努めている。反面、「家庭での学習」については保護者・生徒・教員ともに評価が79・67・72%と伸びず、家庭学習の在り方を改善すると共に、学力向上の取り組みを進めていく必要がある。

【進路指導】

「将来の進路や生き方について考える機会がある」91%、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」90%と高評価である反面、保護者では「進路についての情報を様々な資料で知らせてくれる」64%と、進路に関する項目で若干ではあるが昨年度のポイントより低くなっている。「探究の授業や出前授業などを通じて様々な講師の話を聞いて進路を考えるきっかけとなった」が82%と高評価を得ており、『キャリア教育の充実』が生徒の満足を得られる形で実施されている。進路指導において情報提供だけでなく、生徒自身が様々なことを自分事として捉え進路実現に向かう力の醸成が益々必要である。

【生徒指導等】

今年度の1学期末まで実施してきた健康調査を廃止し、始業時間にゆとりを持たせた形になった。それまでの遅刻回数と比べ、学校全体で38%増加し、朝の5分の健康チェックが遅刻を抑制する役割を果たしていたと考えられる。12月現在で、平均して年間1人あたりの遅刻回数は1回に満たないが、全体的には3年生の遅刻が多く、一部の生徒に遅刻が重なる傾向にある。しかしながら、学校の基本である授業を大切にしようという姿勢は、授業見学でも感じる。次年度に向け、始業の在り方について再考する必要がある。

「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が87%、「人権の大切さについて学ぶ機会がある」92%。保護者の方も「学校の雰囲気が良く生徒たちが生き生きとしている」86%「子どもは良い友達関係に恵まれている」92%と昨年度を上回り、日頃から学校と保護者とが連携して学校生活の充実に努めていることが窺える。

⇒ペアワークやグループワークを日々の授業で取り入れる教員が多くなっている

▷長時間労働

何か具体的な対策や出来たらいいなと思う対策があるか？

⇒部活動が大きな原因とは考えられる。学校全体で考えていかなければならない

▷部活動の外部顧問は？

⇒外部指導員の府の担当は、運動部が3人で30回/年。文化部が20回/年。

部活動指導員は試合の引率なども単独で可能だが、要望しないと配置されない。全府立高校に配置されていない。

▷教科書

学校運営協議会で承認するのか？

⇒選定の状況を報告して確認いただき意見などもいただくこととなっている

教科書はうすくなっているか？生徒のカバンが毎日重いのが心配。負担軽減の方策があれば検討できないか。

⇒紙ベースが基本、QRコードを読み込めば実験の様子が見られるなどの工夫がされているが、教科書の内容が見られるわけでない。

ロッカーに置くことは禁止していないので、家庭学習に必要なものを精選して。タブレットが軽減に寄与することになっていくかもしれないが。

【第2回】令和4年11月24日(金)15:30~17:00

▷北千里高校は地域から期待されている

チャレンジデイなど地域での活動に参画した生徒の感想をフィードバック。情報共有して共感。地域へ出て成長した！という実感が持てるか。

▷何のために勉強するのか。

それがわかった瞬間に勝手に燃えていく。スイッチを押してやることは、学校で出来ることと地域で出来ることではないか。どんなことができるかを学校で考えてもらって、ここは助けて欲しいということを書いてもらえたら！(先生の負担を増やさない案をお願いしたい。先生の負担が増えるものすべて反対。)

▷一人称(自分事)であるか？

高校時代に海外に飛び出して学んだときに、身をもって人種差別を感じた。大事な自分事としてとらえられているか。

今の生徒たちが日本の企業で働くのか？仕事の相手は海外の人であることも多いはず。その時に問われるのは、出身大学ではない。あなたと私が仕事をして1+1=2以上になるか？を問われる。

▷生徒は真面目過ぎ？(角がない)

信念を持って自分の意見を言えるか。「失敗があっても大丈夫。」

▷スクールミッション

「強く 正しく 明るく」昭和の強いと令和の強いは少し違う？

「強い」とは、どのような強さ？強いとは、どのような強さ？具体的なイメージを作ることも一つの方法ではないか

▷ICTの活用 デジタルシチズンシップ

マイナスの使い方をしないための教育もすすめてほしい。有効な活用のために。

▷各教科での研究授業

他教科から言いにくいとかはないか？

→いいところを見つけてプラスに働く研究協議になるようにしている。

研究協議の種類 超辛口 辛口 ちょっと甘口 甘口 を授業者が選べるようにする。

▷高校選び

同じような思いを持った子どもがいる(真面目な子が多い→安心)

▷地域連携

学校にはがんばって来ている(緊張や不安)

地域では家とも学校とも違う自分がいる(学校はある意味守られている)地域に出て、地域の人にほめてもらうこと、アドバイスもらうこと。地域で何をする？どんな貢献が出来るか？を考えることで、コミュニケーション、企画力を身に付けることができる。

【第3回】令和5年2月24日(金)15:00~16:30

▷R4年度学校評価及びR5学校経営計画について

今年度の重点目標

・個別最適な学びのために教員がICTによってつながる。

・自学自習の推進。

・豊かな人間性の作成

国際社会を考えさせて(人権をふまえ)、力を入れていきたい。

・SDGs(昨年度は教員からの質問や、レポートのまとめをおこなっている。)

1年生:前半に探究とはなにか

10月頃から業者(朝日新聞等)を呼び、簡単なワークをおこなう。

身近なところからテーマを決める。

→社会課題に合致するかどうかグローバル化につながる。

→学校だけではなく学校外で発表する方法(アウトプット)を検討するとよい。

▷その他

→心のケア(マスク等で子ども同士で批判がでないよう)に力を入れてほしい。

→主体的に活動させるにはアウトプットをたくさんさせる。鍛える場面を数多くさせる。

R4年度学校評価及びR5学校経営計画について承認を得る

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 授業の充実	<p>(1) 授業の充実</p> <p>(2) 希望する進路の実現</p>	<p>ア ICT活用、アクティブラーニングを推進し、タブレットの活用機会を増やす</p> <p>イ 相互の授業見学の機会を設定し、授業改善に努める</p> <p>ウ 観点別学習評価を意識した学習(パフォーマンス課題や討議、レポートなど)が実践できるよう教科会の充実を図る</p> <p>エ 思考力、判断力、表現力や学びに向かう姿勢が培われような課題設定を行う</p> <p>様々な教育活動の中で</p> <p>① 外部評価を得る機会の設定</p> <p>② 資格取得の推進</p> <p>③ 探究活動の充実を図り、進路選択のモチベーションを高める。</p> <p>④ 経済的理由等で修学困難な生徒に対し、様々な面でサポートする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 学校教育自己診断 (生徒)「タブレットが活用されている」70%[65%] 「授業では意見を述べたり深く考える機会がある」80%の維持 [R2:78% R3:81%]</p> <p>イ) 授業見学週間の設定2回[1回]</p> <p>ウ) (教員)「観点別評価の課題設定・検証のための教科会が効果的に運営できている」 R4:60%以上</p> <p>エ) (生徒)「論理的に考える力が身についた」(R3:72⇒R4:72%維持) 「意見を述べたり深く考える機会」現状維持[81%] 「進路や生き方について考える機会」現状維持[90%]</p> <p>(2) 教育活動の中で外部評価や外部のコンクール、作品応募、地域連携などを推進する。(2回) 修学・進学に関する必要な学資についての手続きをサポートし、必要であれば、SC及びSSWとの連携も図っていく。</p>	<p>(1) ア 概ね各教科で活用が進んでおり、教員で「活用の効果的な方法」について自主研修が行われるようになった。学校教育自己診断(生徒)「タブレット活用」85%(◎)「授業では意見を述べたり深く考える」87%(◎) イ 授業見学週間を6月11月の2回実施。(○) ウ 「観点別評価」研修を通じて研究授業を行い、教科内で現状と課題を共有化。事後の教員アンケートで「教科会が効率的に運営できる」88.9%(◎) エ 教科指導や探究学習において様々なスタイルで問いを立て答えを導く工夫を行った。(生徒)「論理的」79%(◎)「意見を述べたり深く考える」87%(◎)「進路や生き方」91%(◎)</p> <p>(2) 外部のコンクールへの参加は個人で行い、優秀賞など入賞を果たしている。学校での活動や取り組みが、個人の活動欲求を促進させていると考えられる。(○)ヤングケアラーの生徒への支援もSC及びSSWと連携を図る等、組織で取り組んだ。(○)</p>
2 豊かな人間性の育成	<p>(1) 人権教育の充実</p> <p>(2) 部活動、学校行事の充実</p>	<p>・ワークショップ型や当事者による問いかけなど、人権教育の充実を図る。</p> <p>・部活動による人間関係力の育成や生徒自治を充実させ、生徒が主体となって学校行事の運営ができるよう生徒たちを支え、思考力、判断力、実行力など生きる上で必要な力を育む</p>	<p>(1) ワークショップ形式の研修や当事者との交流など、体験し肌で感じる人権教育の実践 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」現状維持[89%]</p> <p>(2) 部活動加入率の維持[90%] 生徒が主体となる行事の運営 「学校行事が楽しい」95%以上の維持[97%]</p>	<p>(1) 人権HRを生徒9回、教職員人権研修2回実施。ワークショップ型をはじめ、「自分事」として捉えられる内容であった。(生徒)「人権教育の大切さ」92%(◎)</p> <p>(2) 学校行事の運営では「生徒の主体性の涵養」を促す取り組みを行ってきた。体育祭や文化祭などの学校行事を生徒会が主導し、運営上で生じた課題をより主体的に仲間と共に解決する力を身につけていると判断できる。 (生徒)「体育祭や文化祭には楽しく参加」96%(◎) 部活動加入率91%(◎)</p>
3 地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 地域連携活動の推進</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>(3) 働き方改革の推進</p> <p>(4) 危機管理</p>	<p>地域の行事に積極的に参加し、日頃の教育活動を発表したり、地域の方々から評価を受け、共に育ちあう機会を作る。</p> <p>学校見学会やHPを通じて、学校の特色を発信する。</p> <p>毎月、時間外勤務の多い職員に月の途中で声掛けを行い、働き方改革を推進する。</p> <p>情報の共有が適切に図られることを意識して危機管理に取り組む。</p>	<p>(1) 地域参加の機会を推進する ・吹田市のイベント (1回) ・学校間交流 (1回) ・ボランティア活動の推奨 (夏季休業中など)</p> <p>(2) 学校見学会 (3回) Webを活用した広報活動の実施</p> <p>(3) 時間外労働時間が80時間超となる職員の延べ数20名以下[17名]</p> <p>(4) いじめ対策委員会、食物アレルギー対応委員会などの危機管理に関する委員会を定期的に開催する</p>	<p>(1) ・吹田市のイベントには2回参加した。(吹田市チャレンジデイ、千里の竹あかり) ・箕面支援学校との交流(吹田市立藤白台小学校との交流は見送り) ・クリーン作戦実施(12月) (◎)</p> <p>(2) 学校見学会はコロナ禍であったが、予定通り3回実施 (○)</p> <p>(3) 時間外労働時間で80時間超の職員は延べ19名 (○)</p> <p>(4) 機会あるごとに校内の情報共有やサービス・コンプライアンス・ハラスメント等の綱紀保持について共通理解を図ってきた。 いじめ対策委員会食物アレルギー対策委員会は年4回、支援委員会は月ごとに開催し、共通理解に努めてきた。(○)</p>